

主 題：苦しみの主

聖書箇所：イザヤ書 53章1－6節

主イエス・キリストとはいったい何者なのか？この問いかけに対して、神が私たちに与えてくださった聖書のみことばは「彼こそが救い主であり、彼こそがすべての主権者なる神であること」を明らかにしています。イエスとはだれなのか？「真の神であり、唯一の救い主である」とみことばは私たちに教えてくれます。そのことをみことばが明らかにしています。

今日、私たちはイザヤ書53章のみことばから、すべてを学ぶことは出来ませんが、1節から6節までをいっしょに学んでいきます。というのは、イザヤも私たちに「このような救い主がこの世におみえになる、この救い主は私たち人間のためにこのようなことを為してくださる。」と、そのことを預言しているからです。イザヤはその方に会うことは出来ませんでした。しかし、イザヤはこのみことばを通して、世に来られるはずの救い主がどのようなお方であるのか、そのことを明らかにしています。私たちはそれを見ることによって、このみことばが預言した人物がだれなのか、まさに、その方こそが主イエス・キリストであることを明らかにすることが出来ます。

イザヤ書53章のみことばを見て行きましょう。このみことばを見ると、この箇所だけではありませんが、みことばが繰り返して私たちに教えることは、人間、つまり、私たちの罪がどれ程罪深いものなのか、どれ程汚れているのかということです。そして、同時に、それに勝る神の愛を私たちに教えています。感謝なことですが、皆さん。あなたの罪がどのように赤くても、どのように汚れていても、神はあなたを赦してくれるのです。あなたを聖め、あなたを救ってくださる、その希望をみことばは私たちに与えてくれるのです。そして、このイザヤ書53章も同様に、私たちに神のすばらしさを教えてくれます。世に来られるこの救い主がどれ程すばらしいお方なのか、そのことを私たちに示してくれます。

☆イザヤ53：1－6から

まず、1－3節を見ると、そこには人間の罪が記されています。先に話した通り、私たち人間がいかにも罪深い者かを教えます。そして、その後で、それに勝る神のすばらしい愛、その恵みを教えるのです。

A. 人の罪 1－3節

イザヤはの中で、特に大きい二つの罪を私たちに教えています。神のメッセージを受け入れないという罪です。もう一つは、神が備えてくださった救い主を拒絶する、受け入れないという罪です。

1. メッセージの拒否 1節

イスラエルの民、そして、人々はメッセージを拒みました。

1) 聞いたことを

1節「私たちの聞いたことを、だれが信じたか。」、「私たちの聞いたことを」とは、恐らく、イザヤがここで言うことは、私たちが何かを聞いたというよりも、私たち自身が語って来たこと、宣べ伝えて来たメッセージのことです。というのは、人間の、イスラエルの罪が記されているからです。ですから、彼らはメッセージを聞いてもそれを受け入れることがなかったのです。そのことは、私たちはイスラエルの歴史を通して見て来ました。時代を通して、神のみことばを聞く者すべてが、この神を受け入れる訳ではありません。どれ程すばらしい神のメッセージを聞いても、どんなに偉大な神だと聞かされても、人間はなかなかそれに対して心を開く者ではありません。

1節でイザヤが言うことは、イザヤたち預言者が語り続けて来たそのメッセージを、残念ながら、信じる者は少なかったということです。ですから、「だれが信じたか。」と言うのです。余りにも多くの人々がそのメッセージを聞きながらそれを拒み続けている、その現状を表わすのです。

2) 主の御腕

また、「主の御腕は、だれに現われたのか。」とあります。確かに、またイスラエルの歴史を振り返ったときに、彼らはメッセージを聞いただけでなく主のみわざを見て来た訳です。大きな奇蹟を見て来ました。しかし、だからと言って、彼らのすべてが信じた訳ではありません。今でもこのように言う人がいます。「奇蹟を見たら信じる。」と。私は「恐らくそれは起こり得ない」と思います。なぜなら、イスラエルの民は神のすばらしい奇蹟を目の当たりにしました。また、新約の時代でも、イエス・キリストの奇蹟を見た多くの者たちは彼に反旗を翻しました。イザヤは言います。「主のみわざ、主のみ力を見ても人々は信じない。」と。

同時に、「主の御腕は、だれに現われたのか。」ということばは、主の奇蹟を見ても多くの人は信じな

いということだけでなく、実際に救いに導くのは「神の力」であるという、そのことも教えているようです。というのは、この「主の御腕」とは「救いへと導く主の力」です。イザヤは分かっています。それは「だれに現われたのか。」と言います。つまり、神が人々を救いへと導くというそのみわざがにだれに為されたのかということです。多くの人がみことばを聞いたということを今見て来ました。みなが信じたのではなかった。今の時代でもそうです。多くの人がみことばを聞きます。しかし、救われたあなたは神の御力によってこの救いに与ったのです。「あなたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたを選んだ。」と、神があなたの目を開いてくださったのです。神があなたの心を開いてくださったのです。分からなかった真理を悟らせてくださったのです。自分の罪深さを目の当たりにさせてくださったのです。そして、私たちはその方の元へと導かれたのです。イザヤはそのことを知っていました。多くの人がメッセージを聞いても、奇蹟を見ても、その方を信じることがなかった。その現実とともに、救いへと導く神のみわざ、悲しいことに、それがすべての人々の内に成されたものでないことをイザヤは知っていたのです。

確かに、神が人を救いへと導くと私たちも何度も学びましたが、ある人たちは「だから、私たちが救われないこと、滅びに至ることはすべて神の責任である。」と言います。しかし、それが間違っていることはもう皆さんご存じです。なぜなら、メッセージを聞き、そのメッセージに対してどのような選択をするかということは、私たち一人ひとりの責任だからです。皆さんもメッセージを聞き、そのメッセージを受け入れようという選択をされたのです。ある人たちは悲しいことですが、この神を受け入れない、この方を拒むという選択をしています。ですから、罪人が滅んでいくとき、その責任はだれにもなすり付けることは出来ません。その責任は自分自身にあります。私たちはそのことをよく覚えておかなければいけないのです。

さて、イザヤが言うことは、このイスラエルの民、また、それ以外の人々もその通りですが、このすばらしい神のメッセージを拒んだだけではなく、実は、送られて来る救い主を彼らは拒むということを2-3節で教えます。

2. 救い主の拒絶 2-3節

1) 約束の救い主 2 a 節

(1) 若枝のように芽生え : 救い主の預言

2節「彼は主の前に若枝のように芽生え、」、イザヤはすでに11:1でこのように預言しました。「エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。」、エッサイの家系から救世主が生まれて来るという預言です。その預言通りに、この方がお生まれになるということをイザヤは預言するのです。

(2) 砂漠の地 : 救い主が生きる状況

同時に、「砂漠の地から出る根のように育った。」とあります。砂漠の地は生きるのに非常に大変なところですよ。つまり、イザヤはこのような表現を使うことによって、生まれて来る救い主は大変な状況の中を生きて行く、乾燥し切った、その乾燥はどちらかというと霊的に乾燥し切った、そのようなところに現われると、そのことを教えるのです。

2) 人々の態度 : 人々が救い主に対して取った四つの態度 2 b-3節

さて、この生まれて来ると預言された救い主、この救い主に対して人々はどんな態度をもって彼を迎え入れようとするのでしょうか？イザヤはこの後、この救い主、しもべに対する人々の四つの態度を記しています。すべて否定的に記されています。

(1) 偏見 :

「彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。」、2 b 節

ここでイザヤは生まれて来る救世主の容姿が非常に見すばらしいということを言っているのではありません。人々の偏見のことです。この方に対して間違ったメガネでもって見るという、そのような人間の過ちのことを言うのです。つまり、生まれて来る救世主は人々が期待するような、人々が考えるようなリーダーの姿ではなかったということです。

思い出していただきたいのは、サウル王の後、サムエルが彼の後継者を捜すためにエッサイのところにやって来た時のことです。エッサイには8人の男の子がいましたが、その長男のエリアブを見たときにサムエルはこのように思いました。Iサムエル16:6「彼らが来たとき、サムエルはエリアブを見て、「確かに、主の前で油をそそがれる者だ。」と思った。」、つまり、この長男こそがサウルの後継者であると思ったのです。そのときに主はこのように言われました。7節「しかし主はサムエルに仰せられた。『彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。』。つまり、サムエルはイスラエルの王となるべき方はこのような方であると、その思いをもって見たのです。そうすると、このエッサイの長男のエリアブがそれに最もふさわしいと

思いました。そのときに神は「あなたが見るようにわたしは見ません。わたしが見るのは容姿ではなくてその人の心だ。」と言われました。その面で神がお選びになった人はサムエルが考えている人物ではなかったのです。

ですから、人々が考えるようなリーダー、救い主ではない、その人を見てもだれもこの人は救い主にふさわしい、自分たちを救い出してくれる人にふさわしいと思わないと、そのことをイザヤは言うのです。そのように人々は救い主に偏見をもって見ました。

(2) 軽蔑：「さげすまれ」 3 a 節

お見えになる救い主に対して人々は、彼を見下し、彼をひどく嫌うのです。救い主を嫌って見下したのです。人としてお生まれになったこの神に対して。

(3) 拒絶：「人々からのけ者にされ」 3 a 節

拒絶されたということです。人々は彼を拒んだのです。彼を拒否したのです。

(4) 不敬：「人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。」 3 c 節

彼を尊敬しなかったのです。この救い主を見たときに人々は、この方に価値があるとかこの方が重要なお方であると、そのように思わなかったのです。ゆえに、人々はこの救い主に対して顔をそむけ尊ばなかったのです。私たちのためにこの世に来てくださった救い主を見た人々は、「私にはこの人は重要ではない」と言うのです。

3) 悲しみの人：このようなことのゆえに、このしもべは悲しみに満たされていた 3 b 節

3 b 節「悲しみの人で病を知っていた。」、何という慰めのことばでしょう。人間がしたことは、このように罪に罪を重ねることでした。ところが、この救い主は「悲しみの人」である、つまり、このようなことのゆえに心は痛んでいるのですが、その原因は人々が病に冒されていること、つまり、人々に罪があることをご存じだったのです。イザヤ書 1 章 5 b－6 節を見た時に、この「病」とは「人の罪」を指していることが分かります。「反逆に反逆を重ねて。頭は残すところなく病にかかり、心臓もすっかり弱り果てている。6 足の裏から頭まで、健全なところはなく、傷と、打ち傷と、打たれた生傷。絞り出してももらえず、包んでももらえず、油で和らげてもらえない。」、つまり、この救い主は、このように主に対して逆らい続ける者たちを見て、彼らの内にある罪をご覧になって嘆いておられるのです。私たちがどんなに罪深いかを知った上で、私たちのことを嘆いておられるのです。そのようなあわれみの主なのです。そのことを私たちはこの中に再び見ることが出来るのです。預言者イザヤは「神のメッセージを拒んで来たように、人々は救い主を受け入れない」、人々は救い主に対してこのような罪を犯すと預言しました。

そして、イエス・キリストに少し目を向けてみましょう。

主イエスに対して人々が行なったこと：イエスがこの地上におられたときに、人々はイエスに対して何をしたのか？数あるみことばの中から一箇所だけ見ます。ルカの福音書 18：32「人の子は異邦人に引き渡され、そして彼らにあざけられ、はずかしめられ、つばきをかけられます。」、主イエス・キリストご自身がこのように言っておられます。十二弟子をそばに呼んで、人々はこんなことをわたしに為すと言われたのです。今私たちが見てきた、イザヤが預言した生まれてくる救世主、その方が経験すると言ったことをイエスご自身が経験していると思いませんか？イエスはいったいだれなのか？みことばは私たちに言います。「救い主、預言されていた救い主である」と。

さて、人間はこうして主に対して罪を犯します。罪に罪を重ねます。そのような罪人に対する主の恵みが 4 節から 9 節に出て来ます。

B. 主の恵み 4－9 節

1. 救い主の死の目的：私たちの身代わり 4－6 節

4 節は「まことに、」という接頭詞で始まります。ここからイザヤは、この世に来られる救い主の、この世に来られるその目的について教えるのです。何のために救世主がこの世に来られるのか？何のために救い主がこの世に来てくださるのか？その目的をこれから語ろうとするのです。その答えを言うと、それは「私たちの罪の身代わりとなるため」です。あなたの罪の身代わりとなるために救い主が来てくださったのです。あなたの身代わりです。ですから、4－6 節を見ると、「私たちの」ということばが繰り返されています。4 節「私たちの病を負い」、「私たちの痛みをになった」、5 節「私たちのそむきの罪のために」、「私たちの咎のために」と、「私たちの」ということばが 8 回も出て来ます。

ですから、まず、イザヤはこの方がこの世に来られた目的は「私たちの罪のため」だと言います。ですから、ここには人の罪を表わす四つの名詞が出て来ます。

・人の罪を表わす四つの名詞

a. 病 = 「私たちの病」 4 節

b. 痛み = 「私たちの痛み」 4 節

c. 背き = 「私たちの背きの罪」 5 節

d. 咎 = 「私たちの咎」 5－6 節

私たちの罪のためにこの救い主はこの世に来られたと、このようにイザヤは預言をしたのです。その目的を見て行きましょう。

1) 罪を負ってくださった 4 節

4 節に「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。」とあります。イザヤは言います。「この方が来られたのは私たちの罪を負うためである。」と。「私たちの病…、私たちの痛み」、これは罪によって心が病んでいる状態、罪によって様々な痛みがもたらされている、そのことを表わしています。しかも、5 節にはその罪に対してイザヤはより詳しい説明を加えています。ここには二つの罪が記されています。

・私たちの罪について

a. 「私たちのそむきの罪」＝これは神に対する反抗の罪です。私たちが主に対して謀反を為す、神に従って行こうとしないことです。

b. 「私たちの咎」＝不正、不法行為のことです。

これらのことをイザヤはこのように表現しています。6 節「私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。」と。私たちの背きの罪、私たちの咎、イザヤが言うことは、結局、私たちの問題は、私たちを造ってくださった創造主なる真の神を無視して、私たちの好きなように歩んでいることだということです。私たちは自分のしたいことをやっていきたい、自分の好きなように生きていきたいのです。干渉されたくないし、支配されたくないのです。

・すべての人が神に対して罪を犯した

創世記 6 : 5 「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。」

神が洪水をもってこの世界をさばかれたという話を思い出してください。あの洪水から助け出された人たちはだれでしたか？洪水によってさばかれなかった人たちはだれですか？ノアとその家族だけです。120 年もの間、人々はノアが箱舟を作っている様子を見たのです。ノアの話聞いたのです。しかし、人々はそのメッセージに心を開こうとはしませんでした。その当時の人々の様子がどうであったかを、創世記 6 章 5 節が教えています。つまり、人々はなぜさばかれたのか？人々は神のことを考えるよりも自分のことを考え、自分の好きなように生きようとしていたからです。人々は、どうすればもっと自分を満足させることが出来るのか、どうすれば自分の欲しいものを手に入れることが出来るのかと、考えることは自分のことだけだったのです。神を全く無視していたのです。

今、私たちがこの日本という国に住んでいて、私たちがこの日本の人たちに、特に、子どもたちにも教えなければならないことは、私たちは猿から進化したのではなく神によって造られたということです。創世記の最初でなぜそのことを教えるのでしょうか？パウロがアテネの町に行った時に、多神教のギリシャの人々に対して、彼はなぜ、神はすべてをお造りになった創造主だと教えたのでしょうか？神がどのようなお方であるのかが分からなければ、人々は救いを求めて出て来ません。なぜなら、私たちが造られたということが分かれば、当然、そこに出て来るのは造ってくださった方に対する個人的な一人ひとりの責任です。なぜなら、造られた方は目的をもって造ってくださったからです。何のために造られたのか？そのことがはっきりすると、私たちはその目的に沿って生きていないことが分かるのです。そのときにやっと罪が分かるのです。でも、「みんな悪いことをしているし、私も悪いことをしている。そんなに大きく取り上げる問題ではないのではないか…？」と言うでしょう。私たちが考えなければいけないことは、造ってくださった創造主のその目的に従って、その計画に従って、その命令に従って私たちは生きていないということです。それが罪です。

どうして、神が洪水によって人々を滅ぼしたのか？人々は神のことを考えるよりも、神に従って生きていくことよりも、自分の好きなように生きていきたいとそのような生き方をしていたからです。それゆえに、神のさばきが下ったのです。私たちは知らなければいけないのです。私たちは造られたことを。私たちは知らなければいけないのです。造ってくださった神は「このように生きなさい！」と私たちに命令しておられるのです。しかし、悲しいことに、私たちはその命令を全く無視して自分の好きなように生きて来たのです。このような罪を犯しているのです。

士師記 17 : 6 (21 : 25) 「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行なっていた。」

その当時のイスラエルの問題はこの通りでした。今、私たちが見て来たように、みなが好きなのをしていたのです。大変な罪の社会です。

ローマ 3 : 10 「義人はいない。ひとりもない。」

まさにこの通り、神の前に正しい人などどこにもいないのです。

ローマ 1 : 2 1 「というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。」

同じように、人々は神がいることを知っていながら、その創造主なる神を求めて出て来ようとしません。

ローマ 1 : 2 5 「それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。」

却って、ここで教えるようにと、創造主なる神を全く無視して、神でないものを崇拝するようになったのです。なぜ、そのようなことをするのでしょうか？自分の欲しいものを得るためです。そのためにはだれかの助けが要るのです。だから、自分に都合の良い神々を選んだり、造り出したりして自分の好きなように生き続けて行こうとしていたのです。

だれも創造主なる神に従って行こうなどと思っていません。神を自分の願いを成就するために活用しようとしているのです。立場がいつの間にか逆転してしまったのです。

ヨハネ 3 : 1 9 「そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。」

人々は光よりもやみを愛したのです。みな罪が好きなのです。そのように生きて行きたいのです。そうして神に逆らい続けるのです。

ですから、イザヤはまたここで、私たちの罪深さを教えてくれています。神はあなたの罪深さをご存じです。どれ程汚れているか知っておられます。それなのに、神はあなたにすばらしい恵みを与えようとしてくださっています。神はあなたのその罪深さを知れば知るほど、「こんなはずではなかった、こんな人物とは思わなかった。」と失望されているではありません。すべてを知った上でなお、あなたに救いの御手を差し延べておられるのです。

・主の恵み

見てください。このようにあなたの罪深さを知った上でなおも、神がしてくださったことを。今度は三つの動詞を見てください。

「負い」＝4 節「彼は私たちの病を負い」、「何かを運ぶ、何かを持って行く」という意味です。

「になった」＝4 節「私たちの痛みをになった」、「自分の身に引き受ける、それを負担する、それを背負う」という意味です。

「負わせた」＝6 節の最後に「彼に負わせた」とあります。

ですから、人間の罪を知っておられる神がされたことは、あなたのすべての罪をこの救い主の上に背負わせたということです。この救い主があなたのすべての罪をその身に引き受けたのです。神はそのようなことをしてくださったのです。それだけではありません。「罪を負ってくださった」だけでなく、もう一つあります。

2) 罪のさばきを受けてくださった : 私たちの罪のために苦しまれ、死なれた 5 節

「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。」

・刺し通され＝これは「突き刺す、貫通する」という意味です。

・砕かれた＝「押し潰す」ということです。つまり、大変な苦しみに会うということです。

ですから、この救い主はあなたのすべての罪をその身に負ってくださった、引き受けてくださっただけでなく、その救い主は刺し通され、そして、大変な苦しみに会うということを言っているのです。ご存じのようにこれは「死」のことです。この救世主はあなたのすべての罪を負って、そして、死ぬということです。「刺し通され、…砕かれた。」、しかし、それによってどのようなことがもたらされるのでしょうか？救い主のその死の理由について見ます。

2. 救い主の死の理由 : 何のために死なれたのか？

5 節の後半「彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」

1) 平安をもたらし＝神は私たちの心から悲しみや痛みを除いてくださって、代わりに、私たちに平安を与えてくれると言うのです。

2) いやされた＝そして、いやしをもたらすと言います。罪が赦されて、死の病である「罪」から私たちを解放してくださる、その病から私たちをいやしてくださるのです。

この救い主が何のためにあなたの身代わりとなって死んでくださったのでしょうか？それはあなたに平安を与えるためです。そして、あなたにいやしを与えるためです。あなたを罪から救い出してくださった、そこから解放してくださったのです。私たちはこの神のところに行くまで神の平安を得ることはありません。どんなものを得ても、それが私たちに与えてくれる喜びは一時的なものです。でも、私たちが神のところに立ち返るときに、神は神の喜びを与え私たちの心を満たしてくださるのです。イザヤは

この救い主が身代わりに死なれたということは、このような祝福を与えるためであると言います。

驚くべきことをまとめて見ましょう。人がしていることは、救い主に対して逆らい続けるという選択です。神に背き、自分勝手に生きて、好きなように生きて、この方に対して背を向け続けました。救い主を信じようとしなないし、救い主に心を開こうとしなない、自分勝手に生き続けたのです。でも、そのような私たちに対して神がなさったことは、救い主を備えてくださり、その救い主をあなたの代わりに、あなたのすべての罪を負わせて、彼を罰することです。このように言えます。「神はこのしもべをご自分の怒りの対象とすることで、罪人に罪の赦しを与えようとされた。」と。罪を犯しているあなたの代わりに、罪のない主イエス・キリストをさばかれたのです。

でも、悲しいことに、このような神のすばらしいあわれみに対して、人々はそれを心から受け入れることをしなかったのです。4節の後半を見てください。「だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。」、人々がこの救い主の死を見るととき何を思うのか？彼が悪いことをしたから罰せられたと。人々は思わないのです。この救い主の死は私の身代わりだったと。悲劇です。ここまでして救い主が救いを与えようとしてくださっているのに、当の罪人たちは何をしているのでしょうか？彼らは自分の罪によってさばかれています。そうして、この救いを受け入れようとしなないのです。まさに悲劇です。そして、この悲劇はこのイザヤの時代だけではなく、イエスの時代だけでもありません。今の時代も変わっていないのです。同じです。どれ程多くの人がこのすばらしい救いを、自らの愚かな間違った選択によって逃してしまっていることでしょう！

このようにイザヤは預言しました。救世主が来られる！すべての罪を知った上で、その罪を引き受けて、その罪のさばきを代わりに受けてくださる、そして、それによって、信じる者たちに平安を与え、霊的ないやしをもたらす、救いをもたらすと。このようなことをこの救い主は為してくださると。

新約におけるイエス・キリストのそのみわざを見てみましょう。主イエスの十字架に関して次のように記されています。

・新約におけるイエス・キリストの十字架について

1) 罪を負ってくださった

ペテロがそのことについてこのように言っています。Ⅰペテロ2：24「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」、今、私たちが見てきたように、イザヤが預言した救い主は私たちすべての罪をその身に引き受けてくださった、負ってくださった、それは「イエスがなしてくださった」とペテロは言うのです。「罪を負う」、イエスは私たちの罪を引き受けることによって罪人として十字架に架かれ、十字架の上であなたのすべての罪をその身に引き受けてくださったと。

パウロはⅡコリント5：21で「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。」と教えています。罪のないお方が罪あるあなたの身代わりになったということを教えるのです。

2) 罪のさばきを受けてくださった

イザヤはこう言いました。「この救い主は刺し通され砕かれる」と。イエス・キリストはローマ兵によってその手と足に釘を打ち込まれました。刺し通されたのです。ヨハネ19：34に「しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。」と記されています。イザヤが預言した通り「刺し通され」たのです。そのように預言された通り、まさに、イエス・キリストは手と足に釘を打ち込まれ、そして、脇腹は槍で突き刺されたのです。「砕かれた」、非常な苦しみを経験されました。精神的、霊的にイエスが堪えた苦しみは私たちの想像を超えたものです。先ほど、ルカの福音書で見たように、イエスは人々に歓迎されるどころか、人々からあざけられさげすまれ、そして、十字架へと追いやられて行くのです。

・何のためにこのような苦しみを受けられたのか？： 私たち罪人の救いのため！

では、イエス・キリストはなぜこのようなことを経験されたのでしょうか？その目的まで先ほど読んだⅠペテロ2：24は教えています。そして、「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。」、ペテロは言います。「イエスがそのようにして十字架にかかり、あなたの罪のために死んでくださったのは、あなたをその罪から救い出すためだ。あなたを生まれ変わらせるためだ。」と。ですから、それを「罪を離れ、義のために生きるため」と言ったのです。

新しく生まれ変わる： 本当のキリスト者とは？

「罪を離れ」＝罪に死ぬこと、キリストとともに死んだ。これまで神に逆らい続けた者たちが、その間違った生き方を捨てて、本来造られた目的である「神が望んでおられる目的に従って生きる」者と生ま

れ変わる、そのことです。それを為すために、生まれ変わるために、救うために、イエスは十字架で死んでくださったのです。ローマ 6 : 2 「絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。」

「義のために生きる」＝新しい歩みが始まったのです。聖霊により力づけられた歩みです。ローマ 6 : 13 「また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」

新しく生まれ変わるための条件

それは「キリストの身代わりによって生まれ変わる事」です。5節の最後に「彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」とあります。「いやされた」とは「(心の病を) いやす、健全にする、救う」という意味です。私たちは死の病である「罪の病」からいやされたのです。

今日、私たちはこのイザヤ書 53 章から「イザヤが預言した救世主」を見て来ました。この方はいったい何をするのか？そして、私たちに何をもたらしてくれるのか？そして今、私たちが新約聖書を見るときに、まさに、イザヤが預言したその「世に来られるはずの救世主」、それがイエス・キリストであることを明確に理解することができます。

主イエスとはいったいだれだろう？ この主イエスこそ、イザヤが預言した救い主です。

イエスだけです！あなたの罪の身代わりに十字架で死んでくださったのは。

イエスだけです！罪の全くないお方は。

イエスだけです！あなたの罪を知って、あなたの身代わりとなって、自ら進んで十字架でいのちを落としてくださったのは。

イエスだけです！あなたの身代わりにあなたのさばきを十字架で受けてくださったのは。

それは何のために…？それはあなたを愛して、あなたに一番必要な罪の赦し、救いを与えるためです。主イエス・キリストはこう言われました。ヨハネ 11 : 25 「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」、このように言うことができるのは、この方がいのちの源だからです。「わたしを信じる者は生きる」と言われた。なぜ、そのように断言できるのでしょうか？この方は「いのちを与えることの出来る神」だからです。そして、その方が、その神があなたを救うために来てくださったのです。

あなたはどのような選択をしますか？この救い主に背を向けて、この救い主に逆らい続けて、これからはなおこの救いを拒み続けて行くのですか？その罪を止めて、心からこの救い主の備えてくださった救いを受け入れてください。主イエス・キリストはあなたをその罪から救い出し、あなたに平安と霊的ないやしをもたらすことの出来る約束の主です。約束の救い主です。

クリスチャンの皆さん、あなたはイエスの十字架を見上げておられますか？あなたの身代わりとなって十字架に進んで架かってくださり、あなたのすべての罪を引き受けてくださり、あなたの受けるべきさばきをあなたに代わって受けてくださったこの救い主、その方を見上げて、その方に感謝して、その方に喜んで従っておられますか？

先ほど、ペテロが教えてくれたように、私たちがこの救いに与ったのは「罪から離れる」だけでなく「義のために生きる」ためです。神のみこころに従って生きて行こうとするのです。神が喜んでくださることを選択して従って行こうとするのです。そのように生きていच्छいますか？みな失敗します。みな弱い者です。決心しても次の瞬間に失敗するのが私たちです。でも、私たちはこのように決心したのです。「私たちは私たちを造ってくださり、私たちを救ってくださった神を喜ばせるために生きていこう！」と。そのように神の助けをいただきながら歩んでいますか？もしそうなら、そのように歩み続けてください。もしそうでなければ、あなたの罪を悔い改めて、今日からそのように、主を喜ばせる歩みを始めていただくことです。なぜなら、そのためにあなたは救われ、そのためにあなたは救いに与ったのだからです。

《考えましょう》

1. 主イエスがあなたの救いのためにしてくださったことを思いっただけ挙げてください。
2. 主イエスの身代わりの死が、あなたを罪から救うために十分であることの証拠を挙げてください。
3. 主イエスが与えてくださる救いは、あなたの罪全般に及ぶものですか？それとも一部だけのものでしょうか？その理由を挙げてください。
4. 主イエスがイザヤが預言した救い主であることの証拠を、イザヤ書 53 章を見ながら挙げてください。